

高校生のための生き物調査体験ツアー in 台湾 研究者レベルの調査手法を学ぶ アクティブ・ラーニング ツアー

マレーシア国立サバ大学とひとはくの共同事業として1998年以来17年間15回にわたりマレーシア・サバ州で開催されてきた『ボルネオジャングル体験スクール』。2016年、その発展形として、高校生を対象とする生き物調査体験ツアーを台湾で実施しました。このツアーは「国外の豊かな自然の中で、研究者レベルのしっかりした調査手法を体験すること」をその目的としています。

6泊7日の行程の中には、研究者が日ごろ行っている調査を体験できる機会がふんだんにつめ込まれています。早朝の野鳥観察から始まり、夜はライトトラップを設置した蛾の観察まで。2016年実施のプログラムでは日台の生徒混合の4チームで行われ、英語によるコミュニケーションも日を追うごとに活発になっていきました。最終日にはこれまでの実習を基に、チームごと成果をまとめポスター発表を実施。課題に取り組む高校生たちの成長を感じられる充実した7日間となりました。



実施概要

- 実施日：2016年7月24～30日 ●実施場所：台北市立動物園、東眼山自然教育センター
- 参加者：計61名[高校生38名(日本20名、台湾18名)、研究者(日・台15名)、看護師やボランティアなど8名] ●主な内容：バナナトラップによる昆虫調査、ウインクラー装置による土壤微小動物の調査、夜間のライトトラップやカエル・ヘビの観察、吐き戻し法によるキノボリトカゲの食性調査、ハーフトラップを使ったコウモリ調査、コケ植物や花の咲く植物の採集と標本づくりなど
- 事前・事後学習会：植物・昆虫・動物の標本の作製方法、「共生のひろば」で、口頭・ポスター発表
- 実施主体：人と自然の博物館・公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会(日本)、台北市立動物園・台北動物園保育教育基金会(台湾)

国際交流プロジェクト 海外研究拠点と 継続的な交流事業を展開

ひとはくでは国際的視点から「人と自然の共生」に貢献するために、下記のような交流活動を展開しています。

■マレーシア国立サバ大学(1997年6月 交流協定締結)
・「ひとはく・サバ大学共生博物学研究事業」としてボルネオ島での学術調査
・研究成果に基づく展示
・ボルネオ島の生物多様性保全事業(JICAボルネオ生物多様性・生態系保全プログラム)
・ボルネオジャングル体験スクール(1998～2015年、計15回) 等

■フランス・アペロン県(2000年11月 兵庫県が姉妹・友好協定書を締結)

2000年、淡路島で開催された国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」でアペロン県がファーブル館を出展したこと为契机とし姉妹・友好協定書を締結。ひとはくとミクロポリス館(アペロン県にある世界最大の昆虫館)が「ファーブル



- をテーマとする交流」を進めて行くことが定めされました。
- ・国際会議「ファーブルと昆虫学の初期」での講演(2002年、ミクロポリス館)
 - ・「昆虫記刊行100年記念日仏共同企画ファーブルにまなぶ」展(2008年、ひとはく)においてミクロポリス館の紹介や合同で国際会議を開催
 - ・ファーブル没後100年「ファーブルの故郷からのメッセージ」展(2016年、ひとはく)をミクロポリス館と合同開催

多種多様な生涯学習プログラムの提供

学びの段階に応じた年間1400回以上の学習プログラムの実施

ひとはくでは本物に触れ、体験できる学習プログラムを、学びの段階に応じて展開しています。

- オープンセミナー：自然や環境に興味を持つきっかけづくりとなる当日参加型のセミナーで、毎日実施しています。フロアスタッフと研究員による「ひとはく探検隊」やNPO法人人と自然の会による「ドリームスタジオ」など、児童から参加できるプログラムが多いのが特徴です。
- 特注セミナー：来館団体(学校／一般)向けの事前予約型セミナー。学年・分野別に100をこえるメニューがあります。



1.フロアスタッフとあそぼう 2.魚の解剖

■一般セミナー：より専門的に学びたい方を対象に、野外観察会やハイキング、連続セミナーなどを実施。少人数でじっくり取り組むプログラムです。

■教職員・指導者セミナー：教職員・指導者のスキルアップや苦手克服を目的とするセミナーで、夏休み期間中に集中して実施します。



1.フロアスタッフによる「展示室ツアー」 2.深田公園にて昆虫をさがす「チビクワガタみつけよ」

Kids サンデー

「子ども」と「家族」のために 月に1度のスペシャルデー

ひとはくでは、毎月第1日曜日を「Kids(キッズ)サンデー」と呼び、小さな子どもやその家族が楽しめるプログラムを実施しています。この取り組みが始まったのは2012年。フロアスタッフによるクイズなどをしながら展示室をめぐる「展示室ツアー」や、大きなスクリーンで見る「デジタル紙芝居」をはじめ、月によっては、連携活動グループの人と自然の会(詳細p.17)の皆さんによる、歌あそび／楽しい仕掛けがある「パネルシアター」／飛ばしたり音が鳴るような「楽しい工作」…など多彩なプログラムがあります。また、研究員による分かりや

すい説明の「解説!丹波の恐竜化石」のほか、深田公園にて昆虫やドングリをみつけたり、押し葉で貼り絵をつくったりと、季節によって違うプログラムが行われています。最近では、ベビーカーを押して参加される家族連れも多くなってきました。

館内情報システム整備

収蔵品データベースから 事務システムを一体的に刷新 サロンの情報端末更新と合わせ、 優れたICT環境を実現

館内情報システムは機器やシステムの老朽化、セキュリティー対策を踏まえ、2013年度に大幅に更新しました。パソコンやプリンター、収蔵品データベース、各種サーバー、ホームページ、事務システムが対象となります。これまでイベント情報やセミナー受付、部屋や物品予約、関連情報のホームページ公開が個別システムで運用されていましたが、すべてが連動し、事務作業量が大幅に削減されました。また、4F



1.整備前のひとはくサロン 2.広く新しくなったサロン

ひとはくサロンの情報端末と展示空間の更新も併せて実施。タブレットとWi-Fiを利活用して省スペース化を図り、情報表示を核とした可変可動の多目的な空間づくりができました。行政財政改革により予算が半額以下になりましたが、知恵と工夫で前回システムより優れたICT環境が実現しています。